

平成 21年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

作業療法士の作業療法のとらえ方と初回面接・実践内容の関連

学位の種類： 修士（ 作業療法学 ）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学系

学修番号 08896603

氏名： 大松 慶子

(指導教員名：山田 孝)

作業療法士の作業療法のとらえ方と臨床実践の関係を検討するため、41名の作業療法士に、その属性と作業療法のとらえ方を尋ねた。その後、模擬クライアントに対し初回面接の実施を依頼し、終了後、そのクライアントにどのような作業療法を行うかをアンケートに記入してもらった。

結果、通常初回面接を実施しないか、ごく短時間しか実施しない作業療法士が約半数であった。質的分析により、作業療法を「クライアント中心」や「クライアントと作業療法士の協業」ととらえる作業療法士と、そうとらえていない作業療法士は、31名と10名となった。質的・量的分析により、作業療法を「クライアント中心」や「クライアントと作業療法士の協業」ととらえる作業療法士はそうでない作業療法士よりも、初回面接の作業に関する質問で、趣味と興味、職業、IADLについて有意に多く尋ねていることが明らかとなった。一方、プログラム立案においては、両者とも「ADL能力向上のための評価と訓練」と「心身機能維持回復のための評価と訓練」が最も多く、大きな違いは無かった。

作業療法を「クライアント中心」や「クライアントと作業療法士の協業」であり、クライアントの「重要で意味のある作業」を援助するととらえると同時に、初回面接で作業に関する質問を多くし、プログラムでも作業を援助する計画をした作業療法士は8名確認された。その8名のうち、7名は経験9年以下であり、7名が養成校在学中または卒業後に包括的理論について学んでいた。

結果より、2000年以降に卒業した作業療法士を中心に、作業療法を「クライアント中心」でありクライアントの「重要で意味のある作業」を援助するという理解と実践が進みつつあることが明らかとなった。今後、このような作業療法士を育て作業療法の発展に繋げていくためには、養成校内・臨床教育と卒後教育を担う現場の作業療法士の、クライアント中心の作業療法に対する理解とそれに基づいた実践による環境づくりが重要であると考えられた。